

課目名	関係法規・制度						
課目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	湊 啓史		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	行政書士歴11年(現職)		
対象学科・学年	美容科 1年						
授業概要	美容業界の関係法規・制度を理解し、過去問を中心とした学習を行い、国家試験合格を目指す。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					法制度の概要(社会生活における法の役割、法の形式等)を説明することができる。	
	○					衛生行政の概要を説明することができる。	
	○					美容師法並びに施行規則を説明することができる。	
	○					関連法規(運営・衛生)に関する法律を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	関係法規・制度の教科書 過去問演習						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	法制度の概要 美容師法の概要説明			美容師法を予習しておくこと		
	2	衛生法規の概要 衛生行政の意義と歴史			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	3	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 衛生行政を担う行政機関			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	4	美容師法 目的と用語の定義			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	5	美容師に関する規定 その1(養成施設、試験、免許と登録)			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	6	美容師に関する規定 その2(義務)			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	7	美容師に関する規定 その3(業務停止と免許取り消し)			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	8	美容師に関する規定 その4(管理美容師の職務・資格)			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	9	美容所に関する規定			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	10	立入検査と環境衛生監視員 違反者等に対する行政処分			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	11	美容師法の罰則			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	12	関連法規 その1(美容業の運営に関連する法律)			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	13	関連法規 その2(美容業の衛生と消費者保護に関連する法律)			教科書の該当範囲の予習と前回の復習		
	14	国家試験対策 過去問題を解く			過去問や重要ポイントを総復習		
15	国家試験対策 過去問題を解く			過去問や重要ポイントを総復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					100%
履修上の注意	授業を妨害する者に関しては、単位を与えないことがある。						

課目名	化粧品化学 I						
課目名(英)	Cosmetic Chemistry						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	高橋 龍、中川 貴彦		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	学習塾講師担当		
対象学科・学年	美容科 1年						
授業概要	化粧品(化粧品と医薬部外品)の化学成分がどのようなはたらきを持つのかを学習する。また、取り扱いに注意が必要な化粧品(たとえば「混ぜるな危険」と書いてあるものなど)がどのように危険なのかも学習する。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					化粧品の役割と作用や、作用先の皮膚・毛髪について、化学的に説明することができる。	
		○				化粧品の特性を知った上で、注意が必要な化粧品の使い方を説明することができる。	
				○		化粧品化学を学ぶ必要性を認識した上で、積極的に授業に参加することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・化粧品科学 教科書 ・授業プリント(各回の授業最初に配布)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	化粧品概論－化粧品化学が課せられている意義、授業計画、評価方法・基準			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	2	化粧品原料－化粧品の対象となる人体各部の性状			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	3	水性原料－水・エタノール			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	4	油性原料－油脂・ロウ類・炭化水素・その他の油性原料・油性原料の機能			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	5	界面活性剤－界面活性剤の基本的性質・界面活性剤の種類・界面活性剤の化粧品への応用			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	6	高分子化合物－高分子化合物の種類と特性・高分子化合物の化粧品への応用			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	7	色材－色材と化粧品・無機顔料・有機合成色素・光輝性顔料・天然色素			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	8	香料－香料と化粧品・香料の種類・調合香料			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	9	配合成分－化粧品原料の品質保持に用いられる配合成分 化粧品配合成分があたえる機能・その他の特殊成分			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	10	基礎化粧品1－皮膚洗浄用化粧品・化粧水			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	11	基礎化粧品2－クリーム・乳液・その他の基礎化粧品			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	12	毛髪用化粧品1－シャンプー剤・スタイリング剤・パーマ剤・育毛剤			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	13	毛髪用化粧品2－染毛料・染毛剤・ヘアカラー製品			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	14	香水・特殊化粧品－芳香製品・特殊化粧品			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
	15	1～14回のまとめ、基礎化学の補充			教科書の該当範囲を授業前・授業後に読むこと		
評価方法	(1)定期試験(選択肢式・筆記試験) (2)小テスト (3)授業中の態度 の3つにより評価を行う。 (3)授業態度は、出席・提出物(オンラインでの提出を含む)などで評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	試験は授業内容からの出題となる。授業で配布するプリントが試験範囲のものとなる。試験では国家試験を前提とし、語句などの知識問題、そして国家試験のように文章を読んで正誤を判断する問題などを多く扱う。						

課目名	文化論 I						
課目名(英)	cultural theory						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	遠藤 広美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美容文化論教員資格取得		
対象学科・学年	美容科1年						
授業概要	国家試験に対する知識を深めるとともに、西洋ファッション文化史を学ぶ。人の歴史の最古から、美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。歴史の中で創り上げられてきた「美しさ」があり、現代のものと融合することで新しいスタイルを生み出すことが出来る。文化論の中にはデザイン発想する為のヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在する。文化を知り学び、知識を得ることにより、お客様が求める美しさを的確に理解し、幅広いスタイル提供ができ、即戦力に繋がる社会人に目指す。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					西洋ファッション文化史における文化の流れを説明できる。	
	○					西洋ファッション文化史における、それぞれの時代の髪型・メイクを説明できる。	
	○					理美容業界の歴史について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 文化論教科書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 総論			教科書を使い、予習復習を行う。		
	2	第4章 ファッション文化史(西洋編)・・・古代エジプト			教科書を使い、予習復習を行う。		
	3	第4章 ファッション文化史(西洋編)・・・古代ギリシャ・ローマ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	4	第4章 ファッション文化史(西洋編)・・・古代ゲルマン			教科書を使い、予習復習を行う。		
	5	第4章 ファッション文化史(西洋編)・・・中世ヨーロッパ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	6	第4章 ファッション文化史(西洋編)・・・近世Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	7	第4章 ファッション文化史(西洋編)・・・近代Ⅰ・Ⅱ・現代Ⅰ～Ⅶ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	8	まとめ①(第4章 復習テスト①)			教科書、小テストを使い復習する事。		
	9	第5章 礼装の種類・・・和装の礼装			教科書を使い、予習復習を行う。		
	10	第5章 礼装の種類・・・洋装の礼装			教科書を使い、予習復習を行う。		
	11	まとめ②(第5章 復習テスト②)			教科書、小テストを使い復習する事。		
	12	まとめ③(第1章 総論)			まとめプリントを使い、予習・復習を行う		
	13	まとめ④(第4章。第5章 ファッション文化史)			まとめプリントを使い、予習・復習を行う		
	14	まとめ⑤(前期末試験対策)			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
15	前期末試験、解答、解説			教科書を使い、予習復習を行う。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)宿題、レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。宿題・レポートは提出期日の状況で判断する。以上を下記の観点、割合で評価する。成績基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○					20%
履修上の注意							

課目名	ヘアテクニック 【ヘアカット I】					
課目名(英)	Hair Technique (Hair Cut)					
単位数	5単位	時間数	150時間中の 90時間	担当者	西依優・荒木成美・石井	
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務	
対象学科・学年	美容科1年					
授業概要	TONI&GUYベーシックにおいて全てのカット技術の基礎となるワンレングス・グラデーション・レイヤーを理解習得しTONI&GUYフューチャーファンデーションで更にその理解と応用を深める。					
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				カット技術に関する用語や姿勢を理解しTONI&GUY筆記試験において20問中15問以上の正解を得る事ができる。
			○			TONI&GUYベーシック2パターンを5段階評価3以上を取得しベーシック検定(レイヤー)での合格をする事ができる。
			○			TONI&GUYフューチャーファンデーションを理解しテーマ別のカットを表現する事ができる。
		○				頭の形を理解し形として仕上げる事ができる。
テキスト・教材 参考図書	TONI&GUYベーシックtext カット道具一式					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ワンレングス ウィッグNO.1を用いてワンレングスカット			テキストにて事前学習	
	2	ワンレングス ウィッグNO.1を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	3	ワンレングス ウィッグNO.1を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	4	ワンレングス ウィッグNO.2、NO3を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	5	ワンレングス ウィッグNO.2、NO3を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	6	ワンレングス ウィッグNO.2、NO3を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	7	ワンレングス ウィッグNO.4、NO5を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	8	ワンレングス ウィッグNO.4、NO5を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	9	ワンレングス ウィッグNO.4、NO5を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	10	ワンレングス ウィッグNO.6、NO7を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	11	ワンレングス ウィッグNO.6、NO7を用いてワンレングスカット			前回までの復習	
	12	ワンレングス ウィッグNO.8を用いてワンレングスカット テスト			前回までの復習	
	13	グラデーション ウィッグNO.1を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	14	グラデーション ウィッグNO.1を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	15	グラデーション ウィッグNO.1を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	16	グラデーション ウィッグNO.2、NO3を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	17	グラデーション ウィッグNO.2、NO3を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	18	グラデーション ウィッグNO.2、NO3を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	19	グラデーション ウィッグNO.4、NO5を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	20	グラデーション ウィッグNO.4、NO5を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	21	グラデーション ウィッグNO.4、NO5を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	22	グラデーション ウィッグNO.6、NO7を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	23	グラデーション ウィッグNO.6、NO7を用いてグラデーションカット			前回までの復習	
	24	グラデーション ウィッグNO.8を用いてグラデーション テスト			前回までの復習	
25	レイヤー ウィッグNO.1を用いてレイヤーカット			前回までの復習		

	26	レイヤー ウィッグNO.1を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	27	レイヤー ウィッグNO.1を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	28	レイヤー ウィッグNO.2を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	29	レイヤー ウィッグNO.2を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	30	レイヤー ウィッグNO.2を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	31	レイヤー ウィッグNO.2、NO3を用いてレイヤーカット	テキストにて事前学習				
	32	レイヤー ウィッグNO.2、NO3を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	33	レイヤー ウィッグNO.2、NO3を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	34	レイヤー ウィッグNO.3、NO4を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	35	レイヤー ウィッグNO.3、NO4を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	36	レイヤー ウィッグNO.3、NO4を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	37	レイヤー ウィッグNO.4、NO5を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	38	レイヤー ウィッグNO.4、NO5を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	39	レイヤー ウィッグNO.4、NO5を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	40	レイヤー ウィッグNO.5、NO6を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	41	レイヤー ウィッグNO.5、NO6を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	42	レイヤー ウィッグNO.5、NO6を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	43	レイヤー ウィッグNO.6、NO7を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	44	レイヤー ウィッグNO.6、NO7を用いてレイヤーカット	前回までの復習				
	45	レイヤー ウィッグNO.8を用いてレイヤーカット試験	前回までの復習				
評価方法	ワンレングス・グラデーション・レイヤーを本校の認定講師による試験(追・再試験) TONI&GUY JAPAN講師によるレイヤーカットディプロマ認定試験・授業態度・意欲を総合的に評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			○			90%
	宿題・レポート				○		10%
履修上の注意	授業開始前に準備を整えておく。						

課目名	ヘアテクニック【ヘアカラー】						
課目名(英)	HAIR TECHNIQUES (HAIR COLOR)						
単位数	5単位	時間数	150時間中の 10時間	担当者	西依優・荒木成美・石井		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科 1年次						
授業概要	ヘアカラーの塗布、ホイールワークの仕方やボディスタンスなどの基本の技術を身に付け、就職後の即戦力になるよう、実習を交えながら習得する。						
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			自らカラー商材、テクニックを選び、2つ以上のデザインを使って施術することができる。	
	○					毛髪の種類と特徴を踏まえ、施術内容を説明する事ができる。	
	○					染毛剤の種類と特徴を踏まえ、髪の状態で判断し施術を提案することができる。	
		○				助言がなくてもモデルの髪質に合わせた、ダメージに合わせたデザインを提案できる。	
テキスト・教材 参考図書	・日本理容美容教育センター出版 美容技術理論1 ・カラー道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	酸化染毛剤①・・・ヘアカラーリング概論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	酸化染毛剤②・・・トレーニングクリームでの塗布練習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	相モデルカラー実習に向け練習・・・ トレーニングクリームでの実技テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	相モデルヘアカラー・・・相モデルでのアルカリカラー実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	相モデルヘアカラー・・・相モデルでのアルカリカラー実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)実技テストを実施する。以上を下記の観点で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト		○	○			100%
履修上の注意	カラー剤の使用上の注意に従い、実習では施術を実施を行う事。						

課目名	美容教養【起業実務】							
課目名(英)								
単位数	4単位	時間数	120時間中 10時間	担当者	中村 浩徳			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	麻生情報ビジネス専門学校にて教鞭をとる			
対象学科・学年	美容科1年次							
授業概要	卒業後に、美容師を楽しく続けるために、避けては通れない「お金」について学ぶ。 雇用サロン・業務委託・シェアサロンと様々な選択肢がある美容業界の働き方を 学び、深く理解して選択することによって後悔なく働くことができるようになる。 将来自分が美容業界で活躍する姿を明確にイメージ出来るようにする。							
授業形態	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					美容業界の構造について理解するとともに生活における経済と美容業界との関わりについて理解を深めることができる。		
	○					美容を職業とし生涯を見通した生活における資産の管理や計画、リスク管理の考え方について 理解を深め、情報の収集・整理が適切にできることのできる。		
	○					生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し、工夫することができる。		
テキスト・教材 参考図書	(1)まとめテスト(筆記)を最後の授業で行う。(2)授業態度は、出席率で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	美容師を長く楽しく続けるためのお金の授業						
	2	美容業界の様々な働き方						
	3	美容師のライフプランニング						
	4	人気美容師になるために必要な事						
	5	まとめテスト						
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	まとめテスト		◎	○				80%
	授業態度					◎		20%
履修上の注意								

課目名	美容教養【デッサンⅠ】						
課目名(英)							
単位数	4単位	時間数	120時間中 15時間	担当者	森山飛鳥		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美術専門講師3年		
対象学科・学年	美容科1年						
授業概要	<p>形体の構造を意識しながら、立方体、円柱など基本となる形のモチーフを描く。角度、比率などを目で正確に測り、鉛筆のグレースケールで明度や色彩、陰影で立体感を表現する。また人体の骨格や比率を理解し、顔、頭部、全身を陰影をつけて立体的に描く。デッサンで身についた調子のつけ方は色彩感覚を磨き、美意識を高めることにもつながる。</p> <p>この授業を通じてものを観察する目を養い、立体的に把握する力を培う。実際に鉛筆や筆を使って手を動かすことで、目で見て、頭で理解したものを紙の上に表現する方法を習得する。それは将来、美容師として活躍するときにアイデアやイメージをメモしたり、かきとめたりする際に役立つ。</p>						
授業形態	講義： ○	演習：	実習：	実技： △	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			形体の構造、陰影、立体感を表現できる	
			○			角度と奥行き、空間の意識ができる	
			○			顔と頭部の比率、骨格による陰影を表現できる	
			○			画材によるグレースケールの表現で色彩の明度感覚を描写できる	
			○			人体の骨格や動きを把握し、線や面で表現できる	
テキスト・教材 参考図書	必要に応じてA4印刷物、A4画用紙を配付。デッサン道具一式。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	静物デッサン(立方体)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	2	静物デッサン(円柱)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	3	静物デッサン(球体、自然物)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	4	静物デッサン(着彩)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	5	人物デッサン、クロッキー 顔、頭部(石膏像があれば使用)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	6	人物デッサン、クロッキー 顔、頭部(石膏像があれば使用)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	7	人物デッサン、クロッキー 全身(立ちポーズ)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	8	人物デッサン、クロッキー 全身(座りポーズ)				演習する配付物、制作する作品を丁寧に期日までに仕上げる。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)各回で演習する配付物、制作する作品を丁寧に仕上げる。 (2)提出日時に提出する。 (3)態度・意欲に関しては作品の完成度・観察力・技量・集中力・思考力によって評価する。 下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出			◎	○		100%
履修上の注意	提出物(毎回×切)+無遅刻無欠席						



課目名	美容教養【カラーコーディネート】						
課目名(英)	Design(Color Cordinate)						
単位数	4単位	時間数	120時間中 30時間	担当者	荒木 成美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美容室にて美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科 1年次						
授業概要	人を美しくするプロフェッショナルとして「美を見極める力」とその基本となる知識と技能を身に着け、明確な理由に基づく色選びが出来るようになる。パーソナルカラーの知識として色の効果や配色法を学ぶことで、色の選択について豊富なボキャブラリーを用いて提案できる。パーソナルカラー検定モジュール1合格を目指す。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				パーソナルカラーの基礎を理解し、色の見える仕組みについて説明できる。	
	○	○				色の4属性について理解し、属性にのっとって色を見分け説明できる。	
	○	○				各シーズンの表すイメージや特徴を理解し、各シーズンの色を見分けることができる。	
	○					パーソナルカラー検定モジュール1(初級)を取得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	パーソナルカラリスト検定モジュール1公式テキスト、ワークブック パーソナルカラー配色カード、新配色カード194a、配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	パーソナルカラーについて(導入)、検定概要 PCCS色相環①・色の名前・暖色・寒色・中間色				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	PCCS色相環② ・色相環の作成・純色				実施内容の復習	
	3	色のしくみ① ・色相・明度				実施内容の復習	
	4	色のしくみ② ・彩度・清濁				実施内容の復習	
	5	色を見るための条件① ・光				実施内容の復習	
	6	色を見るための条件② ・物体・目				実施内容の復習	
	7	色のものさし① ・トーン表				実施内容の復習	
	8	色のものさし② ・トーン表				実施内容の復習	
	9	色彩の心理効果				実施内容の復習	
	10	配色法 本の配色法・配色技法				・基 実施内容の復習	
	11	フォーシーズン分類① ・「春」「夏」それぞれの属性と効果				実施内容の復習	
	12	フォーシーズン分類② ・「秋」「冬」それぞれの属性と効果				実施内容の復習	
	13	パーソナルカラー実践-診断方法 ・パーソナルカラーの見分け方 ・ペアになりお互いを診断				実施内容の復習	
	14	総まとめテスト(検定模擬試験)				講座全体の復習をしておくこと	
15	総まとめテスト解答解説、検定対策授業				講座全体の復習をしておくこと		
評価方法	(1)講座終了前(検定前)に総まとめテストを実施する (2)確認の小テスト (3)カラーカード等を用いた課題の提出 (4)実習技能 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	総まとめテスト	◎					90%
	小テスト/ワークブック	○					10%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						